$2018.4.1(a) \sim 6.24(a)$

展示替 5月 14日 (月) [前期 4月 1日 (日) ~ 5月 13日 (日) / 後期 5月 15日 (火) ~ 6月 24日 (日)] 河鍋家伝来・河鍋暁斎記念美術館所蔵 The Kawanabe Kyosai Memorial Museum Ancestral Collection: Kyosai and Kyosui

The Soul of the Artist as Pioneered by Father and Daughter

- Bilingual (Japanese/English) Exhibition -



先駆の絵師魂! 父娘で挑んだ画の真髄





- 暁斎(三番叟)(極楽太夫図)河鍋暁斎記念美術館蔵 / 暁翠(羽衣)(百福図) 河鍋暁斎記念美術館蔵 ※いずれも部



東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL 042-691-4511 www.fujibi.or.jp ☑ tokyofujibi ☑ www.facebook.com/fujibi

- 主催:東京富士美術館、河鍋暁斎記念美術館トランズパシフィックエンタープライス
- 後 撈:八王子市、八王子市教育委員会、八王子商工会議 態: 修:河鍋 楠 美 (河鍋 暁 斎 記 念 美 術 館 館 長
- 監 18・2月 調 相 美 (2月 調 既 景 記 念 美 相 略 配 取 休 館 日:月曜日(祝日の場合は開館。翌日火曜日が振替休館 ただし、4月2日(月)は開館

開館時間:午前10時~午後5時(午後4時30分受付終了) 入場料:大人 1,300(1,000)円 / 大高生 800(700)円 中小生 400(300)円 / 未就学児 無料

※() 内は各種割引料金[20名以上の団体・65歳以上の方・当館メルマガ登録者ほか]※主曜日は中小生無料※誕生日当日にご来館された方はご本人のみ無料[証明書をご提示ください。休館日の場合は適用できません]※障がい児者、付添人1名は半額[証明書をご提示ください]

河鍋家伝来・河鍋暁斎記念美術館所蔵

The Kawanahe Kyosai Memorial Museum Ancestral Collection: Kyosai and Kyosa The Soul of the Artist as Pioneered by Father and Daughts - Bilingual (Japanese/English) Exhibition



先駆の絵師魂! 父娘で挑んだ画の真髄



↑TOKYO FUJI ART MUSEUM 東京富士美術館

◀特別出品:暁斎《枯木寒鴉図》榮太樓總本鋪蔵



▲ 府畜(羊人御蛙邸図)



近年人気を集め、話題の展覧会も次々開催されている 河鍋暁斎。本展では幕末から明治前半の画壇において、狩野 派絵師として、また様々な画派を貪欲に学びながら幅広い作 風と領域で活躍した暁斎と、その長女で、柔らかで色彩豊か な美人画や小児図を得意とし、時には父・暁斎と同様の勇壮 な、あるいはユーモラスな作品をも描いた女流画家・暁翠に 焦点を当てます。

河鍋家には暁斎の非凡な技量をうかがわせる3000枚を超える貴重な下絵を始め、江戸

末期から 🔼 来している作品・資料が多く残っています。暁斎の曾孫である河鍋楠美氏 が河鍋暁斎記念美術館を設立して以来、研究の進展とともに暁斎の多彩な画業の有り様が あきらかになってきました。本展は暁斎を暁斎たらしめた伝説的なエピソードとともに、 本画や浮世絵、挿絵や能・狂言画、席画などこれまで部分的に紹介されてきた暁斎を改め

て総合的に展望し、娘・暁翠に受け継がれ伝えられたその画業の 拓 承までを網羅して いきます。

絵師・暁斎は伝統的な狩野派修業を自らのものとしながら、新しい画法や表現、主題 にも積極的に取り組んでいく先取の気風に溢れていました。弟子にイギリスの建築家 コンドルがいたことも有名ですが、暁斎の絵師としての活発で先駆的な活動が同時代に 海外で一躍有名になった一つの要因でしょう。娘・暁翠が初期の女子美術教育に携わって いたことも暁斎の多方面での活動と通じる部分があるようにも思えます。本展の最後には、

「現代に 本 えられる暁斎」としてエピローグを設けます。暁斎が創造した多彩な作品は 現代の私たちや子どもたちに豊かなインスピレーションを与えてくれます。実際に1993 年に大英博物館で開催された暁斎展の折に子どもたちがワークショップで制作した作品の

記録などの紹介も含め、暁斎から暁翠、河鍋家に受け継がれ、そして近年再認識され 工 えられている暁斎の魅力を幅広くご紹介します。

◆暁翠〈百猩々〉

▼ 暁翠 (寛永時代美人図)







The popularity of Kawanabe Kyosai has grown in recent years with much-talked-about exhibitions being held one after another. This exhibition features Kyosai and his daughter Kyosui. Kyosai played an active role in the art scenes from the end of the Tokugawa period (1603-1867; also called the Edo period) to the first half of the Meiji period(1868-1912) as a Kano School painter as well as demonstrating a broad range of styles in extensive fields of art by eagerly learning the techniques of other schools. Kyosai's daughter Kyosui, excelled in soft and colorful paintings of beautiful women and children but at times also created heroic or humorous works like her father.

The Kawanabe family not only possesses over 3,000 preparatory drawings and sketches that divulge his extraordinary skills as a painter but also many works and documents from the late Edo period. Since Kyosai's great-granddaughter Kusumi Kawanabe founded the Kawanabe Kyosai Memorial Museum, her research of Kyosai has revealed his wide ranging artist career in more detail. This exhibition gives a comprehensive view of Kyosai's works including finished paintings, ukiyo-e prints, illustrations, Noh/Kyogen paintings and impromptu paintings, which so far have only been introduced in part. The exhibit also includes legendary anecdotes that made Kyosai what he was, and further showcases such careers that were succeeded by his daughter Kyosui.

Kyosai, the painter, was abounding in a pioneering spirit such as taking in advanced new painting techniques, expressions and even new themes, while at the same time completely acquiring the traditional Kano School styles and techniques. It is well-known that British architect, Josiah Conder, was apprenticed to Kyosai, but what brought his rise to fame abroad at that time was probably also due to his active and pioneering activities as a painter. His

daughter Kvosui's involvement in early art education to girls seems to indicate a connection to Kyosai's widespread activities. At the end of the exhibition will be an epilogue presented as "Kyosai inherited in the modern world." The section introduces from various angles the charms of Kyosai that were passed down to Kyosui and to the Kawanabe family that have been rediscovered in recent years. Exhibits will include the record of works created by children who participated in the workshop at the Kyosai exhibition held at the British Museum in 1993, to show how Kyosai's works offer rich inspiration to adults and children in our time



▲ 陪斎《横たわる美人と猫》 ▼ 陪斎 (風流蛙大合戦之図)



河鍋暁翠 (1868-1935)

河鍋暁斎の長女、父・暁斎に絵を学び、日本画家となる。明治30年代後半には、現在の女子美術大学草創期に教鞭をとり、日本の女子教育に尽力した。

関連イベント

日 時:4月15日(日)14:00~1時間程度

講 師:河鍋楠美 (河鍋暁斎記念美術館 館長)

日 時:4月29日(日)14:00~1時間程度

講師:牧野友衛(トリップアドバイザー代表取締役)、

玉置泰紀 (KADOKAWA 2021 年室 担当部長、前ウォーカー総編集長 伏谷博之(タイムアウト東京 代表取締役)、河鍋楠美 (河鍋暁斎記念美術館 館長) 暁斎の曾孫・河鍋楠美氏を交え、現在から見た暁斎とその作品の魅力を語り合っていただきます

日 時:5月3日(木·祝)、5月5日(土·祝)、各日14:00~1時間程度 出 演:大藏彌太郎

・ 発高が描いた能・狂言画から、《膏薬煉》《末広がり》を公演。大藏礪太郎氏による解説に加え 暁斎の曾孫・河鍋楠美氏との対談 (5月3日) や親子狂言体験も (5月5日)。

日 時:6月3日(日)14:00~1時間程度

講 師:山口晃(画家)、河鍋楠美(河鍋暁斎記念美術館 館長)

-日本の伝統的絵画の様式を用い、油絵技法を使って描く作風で知られ、幅広く活躍する画家 山口晃氏。 纂末・明治期に新しい画風・画器に挑戦し、広く海外まで知られた暁斎とその画家 を継いだ暁翠の人と作品について、暁斎の曾孫・河鍋楠美氏と対談していただきます

日 時:4月7日(土)、4月21日(土)、5月19日(土)、6月2日(土) 6月16日(土)、各日14:00~1時間程度

※申込不要・無料(ただし、いずれも展覧会の入場料金が必要、土曜は中小生無料)



●JR 八王子駅北口 始発から 12:29 発までは、西東京バス 14 番のりばよ り⇒創価大正門東京富士美術館行き、または創価大学循環、「創価大正門東 京富士美術館 | で下車/ 12:31 発以降は、両東京バス 11 番 (八日町経由) もしくは 12 番(ひよどり山トンネル経由)のりばより⇒創価大正門東京富 士美術館行き、創価大学循環、「創価大正門東京富士美術館」で下車 京王八王子駅 西東京バス4番のりばより⇒創価大正門東京富士美術館 行き、または創価大学循環、「創価大正門東京富士美術館」で下車 ●JR 拝島駅(1 時間 1 本程度運行) 西東京バス 3 番のりばより⇒工学院 大学 (高月経由) 行き、「創価大正門東京富士美術館」で下車/純心女子学 園行き、「純心女子学園」で下車、徒歩10分

●JR 秋川駅 (1 時間 1 本程度運行) 西東京バス 2 番のりばより⇒京王八 王子駅 (サマーランド、ひよどり経由) 行き、「純心女子学園」で下車、徒歩10分

●中央道八王子 IC 第 2 出口より八王子市街方面へ 進み、国道16号に合流。三つ目の信号(谷野街道入口) を右折、直進し、二つ目の信号(谷野町)を右折。 ●圏央道あきる野 IC を左折し直進。丹木1丁目 芦沢交差点を右折し直准。



メールマガジンを配信致します。ご登録ください!

www.fujibi.or.jp v tokyofujibi www.facebook.com/fujibi



@kyosaikyosui

大高生 800円 ▶ 700円 中小生 400円 ▶ 300円